ワークシート・資料編

3年生　世界史Ｂ　授業プリント　番外編　「東アジアの冊封体制とその崩壊」

問

著作権の都合上

問題文は掲載しておりません

・手順①（２０分）

Ａ班…問われている内容のなかでも、特に「東アジアの伝統的な国際関係のあり方」について考察する。

Ｂ班…問われている内容のなかでも、特に「東アジアの国際関係の近代における変容」について考察する。

・手順②（２０分）

Ａ班、Ｂ班が合流し、問いに対する解答を完成させる。

・メモ

・これまでの学習内容を踏まえ、これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現してみよう。（複数可）

「東アジアの冊封体制とその崩壊」解答例と解説　**※生徒に配付し、グループごとに自己採点を実施させた**

15 世紀、東アジアでは明を中心に朝貢体制が強化され、周辺国は明から冊封を受け、権威を利用しながら国内体制を整えた。朝鮮では李朝が明の制度を取り入れた改革を行い、ベトナムでは明軍を撃退し独立した黎朝(れいちょう)が、明の制度を取り入れて支配を固めた。日本も室町幕府のもと一時朝貢体制に入ったが、この中で琉球は明との朝貢貿易で得た物資を用いて東シナ海と南シナ海を結ぶ交易の要となった（史料 C）。16 世紀に域内交易が活性化すると琉球の地位が低下し、17 世紀初めに薩摩藩に服属し、日中両属となった。朝鮮は豊臣秀吉による侵攻の際に明の救援を受け、17 世紀に清の冊封を受けた後も、明の継承者を自負する小中華の意識をもった（史料 A）。19 世紀に欧米列強の進出が本格化し、東アジアは条約に基づく主権国家体制への転換を迫られた。アヘン・アロー戦争に敗れた清は、欧米との外交体制を整える一方、周辺国との朝貢体制を維持しようとした。フランスの援助を受けて成立したベトナムの阮朝(げんちょう)が引き続き清に朝貢したため（史料 B）、フランスは 1883 年のフエ条約でベトナムを支配下においた。清は宗主国として反発したが、清仏戦争に敗れ、ベトナムはフランスの保護国となった。日本も積極的な海外進出の姿勢を示し、琉球を領有し朝鮮への進出も図ったため、宗主国として清は対抗し、1894 年に日清戦争が起こった。敗れた清は翌年の下関条約で朝鮮に対する宗主権を放棄し、朝貢体制は崩壊した。（600字）

採点ポイント（２０点満点）※各ポイント１点

①東アジアの伝統的な国際秩序として「朝貢体制」（もしくは「冊封体制」）が存在した
②周辺国は中国王朝の権威を利用しながら国内体制の維持をはかった
③（朝鮮１）李朝が明の制度を取り入れた改革を実施した（具体的制度に触れても〇）
④（朝鮮２）李朝は 17 世紀に清に服属した（清の冊封をうけた）
⑤（朝鮮３）清への服属後も、明への忠誠を維持し、小中華の意識をもった（史料Ａ）
⑥（ベトナム１）15 世紀、明軍を撃退した黎朝(れいちょう)が独立した
⑦（ベトナム２）黎朝(れいちょう)が明の冊封をうけた（明の制度を取り入れて国内支配を固めた）
⑧（※琉球１）明に朝貢し（中国の物資を手に入れ）た
⑨（※琉球２）朝貢貿易で得た物資をもちいて、中継貿易で栄えた（史料Ｃ）
⑩（※琉球３）17 世紀初頭に薩摩藩に服属した後も、中国への朝貢を続けた（日中両属となった）
⑪ヨーロッパ主導の国際体制は、条約締結に基づく主権国家体制だった
⑫19 世紀の欧米進出のなかで、東アジアも主権国家体制への転換を迫られた
⑬清は戦争に敗北後、総理衙門を置く（欧米との外交に対応する）一方、周辺国との朝貢維持を図った
⑭（ベトナム３）ベトナムに成立した阮朝(げんちょう)は引き続き清との朝貢体制を維持しようとした（史料Ｂ）
⑮（ベトナム４）フランスは（フエ条約によって）ベトナムを支配下においた
⑯（ベトナム５）清仏戦争にフランスが勝利し（清が破れ）、ベトナムは清の宗主下から外れた
⑰日本が積極的な海外進出をすすめ、清と対立した
⑱（朝鮮４）日本の朝鮮進出に対し、清は宗主権を主張した
⑲（朝鮮５）朝鮮で日清両軍は軍事衝突した（日清戦争が勃発した）
⑳（朝鮮６）下関条約により、（清は朝鮮への宗主権を放棄し、）朝貢体制が崩壊した

※特に難しかったと思われるポイント

・周辺国は朝貢体制を利用しながら自国の体制強化を図った→リード文から読み取ることができるか。
・19 世紀以降のベトナムだけではなく、15 世紀・黎朝のベトナムの動向にも言及できているか。
・「条約」という指定語句の使い方…「〇〇条約」という使い方ではなく、「条約」を単独で使う必要がある。
　→東アジアの国際秩序と対比する形で、ヨーロッパの国際秩序についての説明で触れる。1648 年ウエストファリア条約を想起し、「条約に基づく主権国家同士の対等な外交関係」という原則に気付くことができるか。
・下関条約の締結をもって、清の朝貢（冊封）体制が崩壊した、という結び方ができているか。
　→時系列、地域ごと、いずれかのまとめ方が考えられるが、このように結ぶ必要がある。

※以下、赤字は生徒の実際の解答例や記載例

解答例１　自己採点 10 点

東アジアにおいて諸国の中国への朝貢は伝統であった。15 世紀頃に朝鮮半島では朝鮮王朝が成立し、科挙の整備や朱子学の導入など明の制度を取り入れた改革を行い、明の重要な朝貢国の一つであった。中国で満州人が支配して清となった後、朝鮮こそ明の正当な中国文化の継承者であるという小中華の意識をもち、両班層の間では中国以上に厳格な儒教の儀礼がとりまとめられた（史料A）。琉球では薩摩の島津氏に服属したが、中国への朝貢は続き、日本と中国に両属する状態になり、日本・中国双方の要素を含む琉球独自の文化が首里城を中心に形成された（史料C）。19 世紀に入ると、アヘン戦争やアロー戦争の講和条約で、欧米との不平等条約を次々と結んだ。また、朝貢体制の外交から転換するために総理衙門（がもん）を設置したが、周辺国との上下関係は変わらなかった。しかしベトナムではフランスの義勇兵の援助を受けて阮朝（げんちょう）をたてた。そして史料Bに記されているようにフエの宮廷では清に服従の意を示した。しかしフランスはベトナムに軍事介入をし、ベトナムをめぐり清仏戦争へと発展した。その結果、ベトナムへのフランスの保護権をみとめた。朝鮮半島で甲午農民戦争が起こると、日清両国が出兵し、日清戦争が起こった。日本が勝利し、朝鮮の独立などを含む下関条約を結んだ。このように清の影響下にあった国が続々と列強各国によりその支配を脱していった。（579 字）

※このグループから挙げられた東アジアの歴史の展開についての「問い」

- **第一次世界大戦、第二次世界大戦に東アジアはどのように関わっていくのだろうか。**
- **今後、東アジアにおける覇権はどのように移り変わっていくのか。**
- **（東アジアからずれたが）宗主国も宗教も異なる東南アジア諸国が、ASEANとして（形だけでも）もまとまっていったのは、どのような経緯からか。**

解答例２　自己採点 12 点

古代から中国では、礼や法を体現する文化地域が中華であり、王座に座る皇帝が世界の中心であると信じられていた。一方、周辺諸国は道徳的な程度が低いと見なされており、徳を備えた中国王朝の皇帝に対して臣下の礼をとる、朝貢関係を結んでいた。しかし実際には、従属関係を意味していたわけでなく、例えば朝鮮においては、北方民族の風俗を重視する清朝に対し、正当な中国文化を継承する小中華の意識を強めることで、支配の強化に利用していた（史料A）。また、薩摩の攻撃を受け中国と日本の両国に従属する形となった琉球においても、それぞれの国の架け橋となることで、異国の珍品・至宝が国中に満ち発展することになった（史料C）。このように周辺諸国は朝貢関係を利用する形で栄えていったのだ。19世紀になると、ヨーロッパ勢力のアジア進出は、従来の東アジアの国際秩序を揺るがせた。史料Bにあるように、ベトナムも清と朝貢関係にあった。19 世紀半ばにフランスが軍事介入したことで清朝が宗主権を主張して派兵し、清仏戦争が起きた。結果、清朝の敗北と天津条約によりベトナムはフランスの保護国となり、朝貢関係は崩れた。またヨーロッパ勢力や日本が朝鮮に開国をせまったことで、朝鮮国内で攘夷派と革命派の対立が続いた。そこへ重要な朝貢国である朝鮮への影響力を高めようとする清と、朝鮮に進出使用とする日本が衝突し日清戦争となった。清の敗北と下関条約により朝鮮は独立し、朝貢関係は途絶えた。外国勢力の介入による、朝貢関係の崩壊により、清のアジア内での影響力は弱まっていった。（653 字）

※このグループから挙げられた東アジアの歴史の展開についての「問い」

- **20 世紀以降、台湾はどのような歴史をたどるのか。**
- **なぜ北朝鮮は、国際的に孤立しているのか。**
- **なぜ北朝鮮は国内の統制が厳しいのか。**

解答例３　自己採点 12 点

中国は従来華夷思想を重んじ、中華民族の優位を主張した。15 世紀の明の皇帝永楽帝は、鄭和を周辺国へ送り朝貢を求めた。琉球は明との朝貢貿易で得た物資を用いて東アジアの貿易の要となった。17 世紀に入ると琉球王国は薩摩藩の支配下に入ったが、独立国として中国と朝貢貿易を続けて、中国と日本とに両属する状況となった。19 世紀に日本は清が宗主権を主張するも琉球処分を行い、沖縄県を設置し日本の支配下においた（史料C）。朝鮮では、明にならって科挙の整備や朱子学が導入された。その後、清による侵攻で朝貢関係に入ったが、夷狄である清への対抗意識から、朝鮮こそ明を継ぐものだという小中華の意識が芽生えた。日朝修好条規で日本が朝鮮と不平等条約を結んで干渉し、日清戦争で清は日本に敗北し、下関条約で朝鮮の独立を認めさせられ、朝貢関係が崩れた（史料A）。ベトナムでは黎朝がおこり明との朝貢貿易をはじめた。18 世紀末ベトナムで西山の乱がおこり、フランスの援助を受けて 19 世紀に阮福映により阮朝が成立した。清は黒旗軍を派遣してベトナム北部に進出した。フランスも北部に進出しフエ条約でフランスが北部と中部を支配下においた。清はベトナムの宗主権を主張し、清仏戦争がおこり、天津条約でベトナムはフランスの保護国となり、フランス領インドシナ連邦が成立した（史料B）。こうして従来の中国を中心とする朝貢関係が崩れた。（582 字）

※このグループから挙げられた東アジアの歴史の展開についての「問い」

- **なぜ朝鮮半島は南北に分断されたのか。**
- **中国は、どのようにして香港とマカオを取り戻したのか。**
- **今後、中国と周辺諸国の関係は、どのように推移していくのか。**
- **ベトナムは、どのようにフランスから独立したのか。**

※他のグループから挙げられた東アジアの歴史の展開についての「問い」

- **列強に支配された東アジア諸国は、どのようにして独立を取り戻すのか。**
- **列強による進出で、東アジア諸国の宗教観はどのように変化したのか。**
- **19 世紀から戦争に負け続け、国力を低下させた中国が、現在経済大国になったのはなぜか。**
- **列強が中国を分割して租借した事実は、現代までの中国とそれらの国々との国交関係にどのように影響しているか。**
- **開港していく中国で、異国人と中国人の間で差別や偏見の意識は生まれたのか。**